

## 第2回大井川水資源検討委員会の説明内容について

### ○議題

(報告事項)

- ・第1回委員会の概要
- ・第1回委員会における主なご意見

(審議事項)

- ・環境保全措置（計画段階）の深度化
- ・まとめ

(その他)

- ・今後のスケジュール

### ○説明内容

- ・「新たな水源の確保」、「トンネル湧水の非常口までのポンプアップ」、「導水路トンネル」の3案及びこれらの組合せの計画について深度化し、その内容について検討。

表 環境保全措置の検討結果

環境保全措置	実現の可能性	多くの方々利用される中下流域の水資源利用への影響	効果の確実性
新たな水源の確保	困難である。	—	—
トンネル湧水の非常口までのポンプアップ	可能である。但し、多大な維持管理が必要であり、電力使用量も大きい。	必要に応じて非常口までポンプアップするため、影響は生じないと考える。	停電や設備故障等の異常時への対応が必要となる。
導水路トンネル	可能である。但し、今後の地質調査等の結果を踏まえた検討が必要である。	必要に応じて導水路トンネル取付位置までのポンプアップを付加するため、影響は生じないと考える。	導水路トンネルから自然流下するため確実である。必要によりポンプアップする場合には停電や設備故障等の異常時への対応が必要となる。

- ・その結果、恒久的かつ確実に大井川に水を戻すことができ、中下流域の水資源利用への影響を回避できる導水路トンネルを主たる環境保全措置として深度化することとし、その際には出口を榎島付近とし、必要に応じて導水路トンネル取付位置までポンプアップを付加する案を進めることを確認。

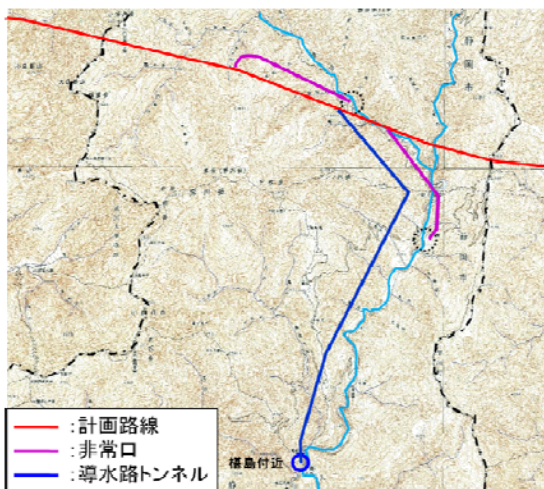


図 導水路トンネルルートイメージ

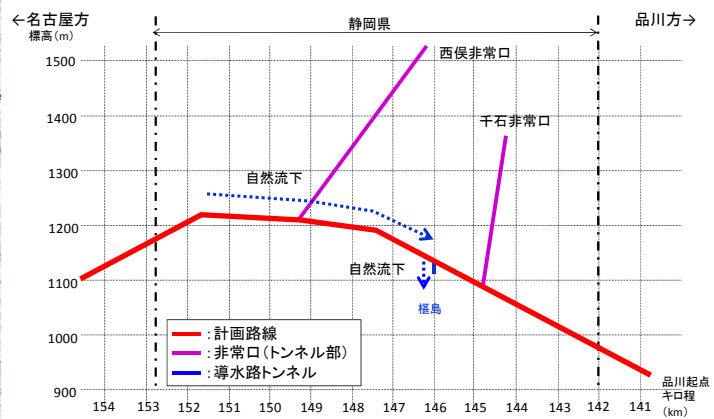


図 導水路トンネルによる復水のイメージ

### ○今後のスケジュール

- ・平成27年夏ごろ 現地調査及び第3回大井川水資源検討委員会
- ・平成27年秋ごろ 第4回大井川水資源検討委員会